

# 「だれもが」「安心して」「豊かに」

校長 木村 滋夫

10月から続いた遠足、校外学習も王禅寺ふるさと公園への「全校たてわり遠足」で一段落です。幸いどの学年も、天候に恵まれと無事に終えることができました。ただ、2年生の生活科校外学習だけは、朝の地下鉄事故と下り坂の天候に気をもみましたが。

今年の全校遠足も快晴の空の下、元気な声と明るい笑顔、下学年への優しい気遣いがあふれる1日でした。暑い1日で落とし物がいっぱいありましたが、閉会式で係の6年生が差し上げると、1年生から6年生まで自分の持ち物を受け取りに出て来ます。毎年のことながら感心させられます。また、公共の交通機関を利用して出かけることも多かったのですが、そこでのマナーも立派でした。この間、6年生とは何度か一緒に出かけましたが、きちんと場にあった行動がとれる6年生ですから、一般の乗客に顔を背けられる心配はありません。今回、3年生とチーズ工場見学に行きましたが、こちら立派の一語でした。子どもたちの団体がドヤドヤと乗ってきたという印象はなく、普段の授業中の子どもたちがそこにいるという印象です。ですから、他の乗客に迷惑をかけないだろうかの気遣いは全く無用でした。このような子どもたちに接するとき、『心が育っているな』と実感します。

12月4日からの1週間は「人権週間」です。これは、1948年12月10日の国連総会での世界人権宣言採択を受けて、10日を最終日として前1週間に設定されたものです。本校でも、子どもたちとこのことについて考えていきたいと思っています。確かに我々を取り巻いて様々な人権上の課題が山積しています。そのことを知識として知ること大切ですが、自分が出会った場面や状況下で具体的にどのような態度や行動がとれるかが重要なのだと考えます。自分の前で起きていることをどのように感じ、どのように行動できるかだと思います。その前に、そのことに気づくかどうかです。それは、何も人権上のことだけでなく日常のあらゆる場面が対象となるのではないのでしょうか。ゴミを平気で落としている人が、いくら人権を説いても虚しいそら言です。

何々教育と教育の名のつくものは数え切れないほどあります。そのいずれも、人の生き方に関係していることは確かですが、「人権教育」は全人教育だと考えます。何をどう感じ、どう見るかは、その人の感性の問題だと思うからです。人としてその感性を磨いていくことが、人権教育なのだと思えています。冒頭に挙げた本校の子どもたちの物を大切に作る心、電車内でのマナー、それら全てが一人ひとりの感性の現れなのだと思えます。

本校の子どもたちは、自分が大切にされている存在なのだという意識が土台として確立されています。だから、自分を大切に、友だちを大切にすることができるのです。その自尊意識のないところで、いくら人権教育と力を入れても人権教育が単なる知識だけの教育になってしまうのではないのでしょうか。

本市人権教育のめあては、『だれもが』『安心して』『豊かに』生活できる学校の実現です。本校806名の子ども全てが、「安心して」「豊かに」学校生活を送れているとは思ってはいません。ただ、どの子も充実した毎日が送れるように、一人ひとりの心をより豊かにしていくことが我々の責務だと考えています。そのために、まず我々教師自身が自らの感性を磨き、豊かなものにしていく努力を怠ってはいけないと思っています。

これからも、子どもたちの心を育て、どの子も温かい雰囲気の中で明るい毎日が送れるよう教職員一同、力を合わせてまいります。ご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。

この秋、6年生が税務署の方をお招きしての「租税教室」を、5年生が劇団四季の団員の皆さんに来校いただき、「美しい日本教室」を実施しました。どちらも、「とても気持ちよく教室が進められました」とのお褒めの言葉をいただきました。話をしてくださる方に応えようとの真摯な態度を認めてくださっての言葉と嬉しく思っています。また、関西二期会、劇団エルムと2年続いて実施していただいた文化庁主催の「本物の舞台芸術体験」を今年度もと、声をかけていただいています。ただ、実施日は卒業式の後となります。(詳細は改めて連絡します)これも、鑑賞マナーのよい本校の子どもたちへのご褒美と感謝しています。